

ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利用者：70代 男性 要介護4

利用期間：令和1年10月 ～ 令和5年12月現在

経 過：入居前自宅と住宅型有料老人ホームを行き来しながら生活をされていた。

パーキンソン病の進行の為入院。薬剤調整を行ったが状態の変動が激しく、今まで入居されていた施設では対応困難となった為当施設へ令和元年10月入居となる。

意思疎通が難しい事があり、転倒、転落、離棟、暴力行為等トラブルになる事が度々あったが、気持ちに寄り添い安全に見守りできる環境を作る事が出来た事例。

内 容

かつて医師であり、50代でパーキンソン病を発病。ご自宅と施設を行き来しながらの生活を続けていました。しかし、令和元年6月意識障害が現れ、薬剤調整のためY市内の病院へ入院。その後も複雑な状態が続きましたが住宅型有料老人ホームでは対応できず、令和元年10月当ホームへ入居となりました。

入居後も問題行動が続き、様々な対策を講じてきましたが、一向に改善されませんでした。しかし考えることを諦めずに介護士が主導しインシデント委員会と連携して再度検証を行ってみました。

現状把握では、令和5年9月～ 10月までの2ヶ月間に17件のインシデント発生。特に11時～ 12時30分までの時間帯に発生するケースが11件、この時間帯5Fフロアの1名体制に伴う職員の手薄な状況が浮かび上がりました。

問題に対処するため、フロアミーティングを経て、インシデント発生時間帯に見守りが行えるよう人員配置と居室の家具の位置を変更。日常生活の動線がスムーズでポジティブな影響や、趣味のカラオケレクで充実した時間を過ごせるようサポート。

笑顔のコミュニケーションを心掛け、ポジティブな感情や安心感を伝えてセロトニンなどの神経伝達物質幸せホルモン放出を意識し心身の健康を促進しました。言葉が制約される場面では文字盤を利用し、感情を理解しやすくし不安や孤独感の軽減の繋がりに努めました。

その結果、インシデントは11月～ 12月までの期間で0件に減少（うち転倒3件→0件、エレベーター乗込み4件→0件）予想を上回る成果を上げました。

この事例から得られた教訓は、複雑で長期にわたる問題に対しても、考えることを諦めないで徹底的な検証と適切なマネジメントが成果に結びつくということです。

今後は見守りシステムの導入を通じ、入居者の活動時間や睡眠の質に基づいたデータに裏打ちされたエビデンスから科学的なアプローチを進め、より一層質の高いケアの提供と安心して過ごしていただける環境を構築し、愛情もって親身な対応に努めて参ります。